

申請日：2022年1月20日

一般財団法人関西空港調査会 2022年度調査研究助成事業 申請書
(注) 別途「申請要領」を参照の上、ご記入下さい。

1. 申請代表者

ふりがな 氏名	おおさか たろう 大阪 太郎 (40) 歳	
所属	〇〇大学エアポート研究所	
役職	准教授	
最終学歴	大学名	〇〇大学大学院工学研究科 (2009年3月修了)
	学位	博士(工学) (2009年3月取得)
連絡先1 (所属)	所在地	(〒543-〇〇〇〇) 大阪市〇〇区△△町□丁目1-1
	電話	06-〇〇〇〇-〇〇〇〇
	E-mail	osaka@****-u.ac.jp
連絡先2 (自宅)	所在地	(〒598-〇〇〇〇) 大阪府泉佐野市〇〇町△△番地
	電話	072-〇〇〇〇-〇〇〇〇
	E-mail	taro@mail.com

2. 共同研究者(無しの場合は空白)

共同研究者 ①	ふりがな 氏名	こうべ いちろう 神戸 一郎 (50) 歳
	所属	〇〇大学エアポート研究所
	役職	教授
共同研究者 ②	ふりがな 氏名	みやこ はなこ 都 花子 (25) 歳
	所属	〇〇大学エアポート研究所
	役職	博士課程(D1)
共同研究者 ③	ふりがな 氏名	() 歳
	所属	
	役職	

(注) 共同研究者は学生や営利団体職員も可能です。4名以上の場合は表を追加してください。

3. 調査研究課題名と分野

調査研究課題名	LCCベリー便による航空貨物輸送の実態調査と採算性の検討
研究概要 (100字以内)	LCCの都市圏間の多頻度輸送に着目し、機材の貨物スペースをeコマースの小口輸送に活用した場合の採算性について明らかにする。
分野	③航空物流、⑦市場分析
備考	新規申請

ホームページで公表します

(注) 分野は、①航空・空港経営、②空港防災、③航空物流、④環境、⑤観光、⑥交通、⑦市場分析、⑧施設維持管理の中から記入してください(複数選択可)。

4. 研究目的・研究意義・期待される成果(600字以内、キーワードは5つ以内)

<p>(1) 研究目的</p> <p>LCCは小型機材による旅客輸送が基本で、数時間程度で飛べる都市と拠点空港間をピストン輸送している。小型機材なので貨物スペースは狭く、乗客の手荷物もあるので、一般的には航空貨物輸送には不向きとされる。一方、近年のeコマースの進展により、多様な小口貨物が急速に増えつつあり、……(中略)……。そこで本研究は、小口貨物のニーズ増大とLCCの特徴である都市圏間の多頻度輸送に着目し、……(中略)……LCCベリー便による航空貨物輸送の拡大を図ることを目的とする。</p> <p>(2) 研究意義</p> <p>本研究が目指す「LCCベリー便による航空貨物輸送の拡大」には、大きく2つの意義がある。1つは……(中略)……。関空のLCCと航空貨物にはまだ十分な伸びしろがあり、将来的な経営戦略の検討において本研究が有効な判断材料になると考える。</p> <p>(3) 期待される成果</p> <p>関空はLCC就航都市数日本一を誇り、旅客のみならずベリー便でeコマースに特化した航空貨物輸送も拡大すれば、……(中略)……関西地域全体の発展に寄与し、地域が活性化すれば航空需要も生まれるといった好循環につながることを期待される。</p>	
キーワード	LCC、ベリー便、eコマース、小口貨物

5. 本研究に関する申請代表者の研究業績(過去5年間(2017年4月以降)のうち主要3件)

	業績1	業績2	業績3
発表年月日	2017年9月9日	2020年10月10日	
単著、共著の別	単著	共著	
著書、学術論文等の名称	関空LCCの台頭が関西経済に与える影響について	コンセッションによる空港の管理運営の現状と課題	
著書発行所、学会等の名称	〇〇学会論文集 No.△△ **-**、2017.9	〇〇出版	

(注) 論文等の写しも申請書に添付してください。

6. 調査研究計画

(1) 主な活動項目と具体的な内容

本調査では、まず既存資料調査により……（中略）……をとりまとめます。

①既存資料調査	LCCベリー便による航空貨物輸送の実態について、公表資料や有料データを用いて世界的な概観を整理する。
②アンケート調査	全国の貨物事業者をリサーチし、航空貨物輸送の取扱量やeコマースの動向についてアンケート調査する。
③ヒアリング調査	国内のLCC4社にはヒアリングを依頼し、LCCベリー便の実績データについて提供を求める。また主要な貨物事業者5社をピックアップし、②のアンケート回答事項についてヒアリングを行い精度を向上させる。
④採算性の検討	LCC各社や貨物事業者から直接得られた航空貨物輸送の現況データを踏まえ、ベリー便の採算ラインを明らかにする。
⑤とりまとめ	上記①～④の結果をとりまとめ、最終的な報告書を作成する。

(2) 工程表

上記の活動項目は、概ね次の工程表に従い実施します。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①既存資料調査	●	●										
②アンケート調査			●	●	●							
③ヒアリング調査					●	●	●					
④採算性の検討								●	●	●		
⑤とりまとめ											●	●

(注)本枠内（A4サイズ1ページ）で記入してください。

7. 予算計画

費目	概算金額	算定根拠
①直接経費	1,650 うち本助成金額 千円 ()	
謝金・人件費	1,000 うち本助成金額 千円 ()	国内 LCC 4 社の各担当者にヒアリング謝礼 (2 万 5 千円×4 人)、国内貨物事業者へのアンケート調査等の研究補助員を雇用 (1 万 5 千円×60 日)
旅費 (合計金額の 30%以下)	390 うち本助成金額 千円 ()	国内 LCC 4 社へのヒアリング (3 万円×4 往復×2 名)、主要貨物事業者 5 社へのヒアリング (3 万円×5 往復×1 名)
備品類 (合計金額の 30%以下)	144 うち本助成金額 千円 ()	IATA のデータ集「World Air Transport Statistics」最新号を購入 (9 万 4 千円)、研究補助員にパソコン購入 (5 万円)
その他	116 うち本助成金額 千円 ()	貨物事業者ヒアリング時のレンタカー代 8 千円×2 日、印刷製本費 3 万円、消耗品費 2 万円、雑役務費 5 万円
②管理経費及び 間接経費	330 うち本助成金額 千円 ()	①の (20) %
合 計	1,980 うち本助成金額 千円 ()	①+②

(注) 1. 助成金の上限は 200 万円です。予算計画が 200 万円を超える場合は、本助成金で賄う費目の金額を記入してください (200 万円以内の場合は空白)。

2. 費目間で 1 割以上の流用が発生する場合は調査会との協議が必要です。ただし、流用金額が少額 (助成金額全体の 5 %以下) の場合は不要です。

8. 他機関への助成金の申請状況と優先順位

機関名	一般財団法人△△研究所	
申請テーマ	LCC ベリー便による航空貨物輸送の実態調査	
助成金額 (万円)	100 万円	
助成期間	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日	
採否通知日	2022 年 3 月 1 日	
優先順位	当該機関	(2) 位
	関西空港調査会	(1) 位

(注) 他機関への申請が 2 件以上の場合は、表を次ページに追加コピーしてください。

9. 調査会が主催するセミナー以外での研究成果の公表予定

	公表時期 (いつ頃)	学会・論集等の名称	備考
予定1	2023年6月	〇〇学会ポスター発表	口頭発表なし
予定2			
予定3			

(注) 本助成による研究成果は、調査会が2023年夏季に催すセミナーで発表することが助成条件となっています。他の論文等で発表する場合は、調査会の助成を受けた旨を付記してください。

10. 公的研究費の適正な運営・管理

<公的研究費の使用に関するコンプライアンス教育（研修）の受講状況>

受講状況（〇印を記入）	受講年月日 (未受講の場合は予定日)	備考
<input checked="" type="radio"/> 受講済 ・ 未受講	2021年4月20日	

(注) 所属機関に提出した誓約書のPDF（未受講の場合は受講後）も申請書に添付してください。

<経理担当者>

ふりがな 氏名	けいり よしこ 経理 良子
所属	〇〇大学財務部経理課
役職	経理係長
連絡先	所在地 (〒543-〇〇〇〇) 大阪市〇〇区△△町□丁目1-1
	電話 06-〇〇〇〇-〇〇〇〇
	E-mail keiri@***-u.ac.jp

(注) 文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（2014年2月18日改正）により、公的研究費を受給する研究者は、所属機関の実施するコンプライアンス教育（研修）の受講が義務付けられています。また、ガイドラインは研究費の管理を大学の事務部門（第三者的な立場）で実施するように求めています。